

コモンズセンターがオープンしました。

コモンズセンター長を拝命しています、伊藤守弘です。よろしくお祈いします。コモンズセンターがオープンして約1か月が経とうとしています。すでに多くの学生がコモンズを利用してきており、嬉しく思っています。今後、さらに多くの学生に利用してもらいたいと願っています。

コモンズセンターは、中部大学のほぼ中心に誕生した、中部大学に集う人々のためのシェアスペースで、これまでに無かった、新しいコンセプトの施設です。多様な学生が、「自ら学ぶ力」「自ら考える力」を備えるために集い、揉み、成し遂げる過程を通して、人間力を培う事を目指しています。簡単に言えば、授業を行う施設ではありません。さらに、食事や休憩をする場所でもありません。未知の発見や、仲間との出会いから、趣味の集い、学生生活を豊かに変える活動が“はじまり・うごきだす”でしょう。日常の楽しみ方は無限です。利用のルールはありますが、コモンズセンターはみなさんの自由な拠点でありたいと考えています。



コモンズセンター長
伊藤 守弘



コモンズセンターの運営は、学生のための施設である以上、学生に担って欲しいと構想の時から考えていました。そこで、「学生の学生による学生のためのサポート」の提供を目指し、『コモンズサポーター』制度をつくりました。現在、23名の学生がコモンズサポーターとして研修を重ね、オープンを迎えました。現在はICT機器の貸し出しや予約管理、施設の良好な利用促進が主たる業務となっていますが、先にも紹介した、コモンズセンターの本来の目的を実現させるために、コモンズサポーター発案によるイベントの企画・立案・実施を行う予定にしています。また、サポーター研修の一つとして、5月より“コモンズセミナー(仮称)”を定期的で開催して、サポーター自らが人間力を養う予定です。“コモンズセミナー(仮称)”はできる限り公開で行いたいと思っています。興味のある学生は、HP等で情報をキャッチしてください。



私事になりますが、コモンズセンター長を拝命してから、大学院時代に整形外科のU教授が特別講義で話された内容を思い出しました。それは、蘭学者である緒方洪庵に関するお話でした。知っている学生も多く居ると思いますが、緒方洪庵は適塾を開き、日本全土から集まった門人に蘭学・医学を教え、幕末から明治にかけての日本の近代化に貢献した大村益次郎、福澤諭吉、長興専斎、高松凌雲ら多くの「人財」を育てた方です。U教授は大変お話の上手な方で、その話に引き込まれた感が忘れられません。そのお話の中で、彼らの勉強ぶりのすさまじさは、福澤諭吉をして「凡そ勉強ということについてはこのうえにしようもないほどに勉強した」と述懐しているとの事でした。さらに印象的なのは、適塾では自由闊達さがあつたと紹介されました。この自由闊達こそ、コモンズセンターが学びの中に求めるものではないかと感じた訳です。もう10年以上前にお聞きした話ですが、その時U教授は、感受性豊かな若者の中に「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」そして「生きる力」を育み、幕末から明治初期に各分野で活躍する多様な「人財」を数多く輩出したのだらうとまとめられました。これこそまさに人間力だと思います。緒方洪庵を意識する訳ではありませんが、「中部大学からは力のある学生、大学院生が出てくるなあー」と評価されるように、コモンズセンターは大学の中心から活動を発信します。

おわりに、本メッセージを毎月更新する予定です。コモンズサポーター、コンシェルジュや事務スタッフを紹介したり、その月に開催したコモンズ企画の内容をセンター長の視点で報告して行きたいと考えています。今後とも、よろしくお祈いします。

コモンズセンター長 伊藤 守弘